

2021年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

令和4年5月17日

法人名

園名

学校法人仏光学園

認定こども園ぶっこう幼稚園

まとめ

全体平均 3.64

第2章第2節 乳児期の園児の保育
0歳児は年度の前半は担当制での関わりを主にを行い、一人ひとりの発達状況を把握しながら保育をするように努めた。優しく丁寧な受け答えを第一にし、保育教諭との信頼関係を育むことが出来たと見える。また年度途中で入園した園児は他の園児よりも月齢が低いいため、その日によって活動内容を変え、担任以外との保育教諭との連携も上手く取り取りながら園児の発育に合わせた関わりをすることが実現できた。

第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育
保育教諭間で子どもたちの情報を共有し、密に関わることで信頼関係をしっかりと築くことができ、そこから子ども達も安心して遊べる環境が作れ、保育を行うことができた。保育教諭によって子どもに対しての関わり方が違うので共通認識しながら同じ関わり方ができるようにしていきたい。楽器で遊んだりできる機会があればさらに充実した活動になったと考ええる。

第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育
コロナウイルス感染拡大防止のためや、楽器の練習などで活動や遊びが制限されてしまうことが多かった。先生一人一人の保育にムラがあり、一貫した教育が難しい。情報を共有したり、どう保育をしていくか決め、それに沿った保育ができるようにしていく。

第2章第5節 教育及び保育の実践に関する配慮事項
子ども一人一人に丁寧に関わることでできる環境だったため、少しでも異変があると気づくことができ、担任間では判断しかねる場合は主任保育士、看護師に相談して、迅速に適切な判断をすることができた。性別について伝える機会が少ないため、そういった話をする時間を設けてもいいのではとある。

第3章 健康及び安全
安全管理や災害時の対応については、定期的な点検、防災訓練を繰り返すことにより全体的には身についていると言える。また園児の健康支援についても概ね出来ている。今後の課題は、全体ではなく個人で対応しなくてはならなくなった場合に、自分で判断し動けるかどうかであると考えられる。また食育に関しては、コロナ以前に出来ていた活動が出来なくなっているため、計画自体の見直しが必要である。

第4章 子育ての支援
今年度はコロナウイルス感染症流行の影響で園庭開放がほとんど行わなくなることが出来ず、地域の子育て支援に関してはあまり出来なかったが、在園児の保護者に対しては、行事面を含め協力して頂かなくてはならないことが多くあり、理解をして頂ける様に努力をした。その中で、保護者それぞれ思いに寄り添う大切さを改めて感じた。今後も子ども一人ひとりの健康面、精神状況をしっかりと把握し、関係機関と協力しながら支援に努めたい。

第5章 職員の資質向上
園外での研修には多く参加し、必要な知識を身につけることに役立っていると言えるが、それを実践に生かしたり全体で共有したりという点は、依然として出来ていない。研修内容だけではなく、それぞれの保育について意見を言い合ったり、教え合ったりする職員同士の関係性の構築が最前の課題である。

総合
乳児クラス・幼児クラス共に保育教諭が子ども一人ひとりと丁寧に関わり、信頼関係を築くことが出来るよう努めている。また保育教諭を仲立ちに子ども同士が一緒に遊んだり、時には衝突したり、それを解決したりしながら関わりを深め成長していく姿も見られた。在職年数の長い教諭が増え、行事運営や災害時の緊急避難など、園全体で動く時の連携も円滑になって来た。その一方で職員一人ひとりの子どもに対する関わり方や保育に対する意識には個人差があるので、職員間で共通意識が持てるよう話し合う機会を持つことが必要であると感じる。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、園外の子育て世帯や地域の方々との関わりが少なかった。次年度は園庭開放など出来ることからやらっていききたいと考えている。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	3.80
「3歳未満児保育」	32	3.66
「3歳以上児保育」	53	3.60
「教育保育の配慮事項」	16	3.69
「健康・安全」	29	3.62
「子育ての支援」	16	3.50
「職員の資質向上」	9	3.67
計	170	3.64

データグラフ

